

種子検査手法講習会を開催しました

令和8年8月26日に飼料作物種苗を取り扱う事業者等の皆様を対象として、ISTA（国際種子検査協会）が定める国際規程に基づく種子検査（発芽試験）の手法についての講習会を開催しました。

この講習会は、平成28年度から実施しており、国内における発芽検査技術の精度確保及び高位平準化を図り、国内で流通する飼料作物種子を高品質化することを目的としています。今年度は、17名の皆様にご参加いただきました。

講習会は、対象作物をトウモロコシとし、ISTA規程等に基づく発芽検査における用語・定義・検査条件・手順及び芽生評価のポイント等の講義、長野支場における検査手順の紹介、参加者の皆様に予め行っていただいた事前検査結果の検証（検査者間の結果の比較）、トウモロコシ及びソルガムを用いた実習を行いました。

また、翌日は、希望された方を対象に当場の種子関連施設を紹介しました。収穫された種子の乾燥、精選及び検査について、実際に施設内や機械を見学していただきました。

参加者の皆様からは、「（トウモロコシ）特有ルールもわかりやすく整理されていて、経験が浅い私にも判定に迷うことなく評価できそうです。」「新たな発見があったり、自社の検査における業務改善ポイントも見つけることができた。」「これまで計4回当講習会に参加しているが、毎回新たな発見があるため今後も継続してこのような講習会を実施してほしい。」等の様々なご意見・ご感想をいただきました。

今後もこのような場を通して、国際規程に基づく検査技術の普及に努めていきたいと思えます。

【講義・実習】



【種子関連施設の見学】

